

平成21年度 第3回中標津町都市計画マスタープラン策定委員会会議議事録

開催日時：平成22年3月4日（木）14:00～16:00

開催場所：中標津町役場 301会議室

参集者：委員 21名中 17名出席

1. 挨拶 建設水道部長 船越 信雄

皆さん今日のご苦勞様です。天気も好天で雪も少しずつ溶けて春の日が近づいてきているの今日この頃でございます。皆さまにおかれましては年度末のお忙しい中でのご出席、ありがとうございます。

この策定委員会も今日で3回目、今年度の最後の委員会となります。また、内容に関しましても5つのテーマ、それから具体的な提案がでてきて、皆さんにとっても私達にとっても何となく形が見えてきたかなという感じがしております。今日は限られた時間ですが、皆さまの色々な角度からのご意見を頂きたいと思えます。これから内容を詰めてまいりますので、今日は宜しくお願ひしたいと思えます。簡単ではございますけれどもご挨拶に代えさせて頂きたいと思えます。

2. 議事

(1) これまでの取組の報告

- ・第2回策定委員会の開催（09/12/17）
- ・第6回庁内推進会議の開催（10/01/27）
- ・第7回庁内推進会議の開催（10/02/10）

(2) 全体都市づくり構想

- ・中期構想（5つのテーマ構想）の具体的展開
事務局より資料に基づき説明



- 委員からの主な意見 -

官民協働による街なかでの居住環境形成

- ・街なかにお年寄り向けの公営住宅などを民間の力を利用しながら協働（PFIや指定管理者などでの対応）で整えていくことができないだろうか。

タワラマップの多様な整備手法

- ・タワラマップの親水環境を整える場合、土地がないと水面まで切り下げることができないため、上流部や下流部など対応が難しい箇所では異なる方法を考えていかなければならない。

きっかけとしての街なかでの介護サービス

- ・介護の施設が、周辺地区にあっても良いが市街地にあれば高齢者も含めて利用しやすく、いろいろなことに結びついていく可能性がある。

まちづくりのための支援センター

- ・今の中標津に必要なものは、情報連携から始まり、それを行動の連携にどうつなげていくかということが非常に求められている。
- ・コピー機を持っていない町内会は、町内会内部での情報連携が難しい状況にある。また、お互いの町内会が何をやっているか分からない状況にある。
- ・これらの解決手段として、支援センターを設置し、情報連携を可能にするとともに、コピー機をセンターに設置し共有することにより、情報連携から行動連携につながっていき役場と町内会の結びつきも深まり、まちづくりに貢献できるのではないかと思う。

しるべつと周辺ゾーンの思い切った活用

- ・しるべつと界隈のゾーンは、街なかでは何かと便利になってきているが、バスセンターの場所が現在の位置でなければいけないのかと感じる。
- ・もう少し機能的で魅力ある何かをこの辺のゾーンを思い切って活用して行けないのかと思う。

まちづくりプランの町民へのPR

- ・まちづくりのプランを町民の方に多くPRすることが良いのではないのかと思う。

高齢者をつなぐ交流のしくみ

- ・自由な時間を持っている高齢者をつないで、若者も含めた交流のシステムができれば面白いのではないか。

新たな中標津バイパスと道の駅

- ・高規格道路の整備に併せた新たな中標津バイパスの整備と観光の集客施設としての道の駅の整備が必要ではないか。

複合的機能を持ったバスセンター

- ・平坦なバスの乗り降りではないバスセンターを整備し、まちの拠点機能として文化や歴史の紹介、お土産コーナーの設置、情報発信の場としていければよいのでは。

街なか(バスセンター)に道の駅

- ・中標津には道の駅がなく、観光客が中標津で何かを見つけようと思ってもどこに行けば良いか分からない。
- ・核として、バスセンターのあたりに道の駅があれば、中標津を発信したり、学生が活用したり、お年寄りが交流したりできる場になると思う。

計画性を持った災害訓練のあり方

- ・災害についての話はずいぶん前からあるが、災害訓練を行ったという記憶がない。計画性を持った訓練のあり方が必要ではないかと思う。

多様なテーマでの高齢者の集まりから広がり

- ・会館などを利用して、高齢者の知識や経験を生かす活動、小中学生との世代間交流、健康教室や振り込め詐欺対策などいろいろなテーマでの高齢者の集まりを開き、つながりを広げていきたい。

若者の集まる場

- ・都会から中標津にきた若者が集まるような娯楽施設があっても良いのではないか。

農業実習の学校

- ・若者に本当に必要なのは職。田舎暮らし体験だけでは、結局職がなく定住にまで至らない。
- ・農業実習の学校があれば、いずれは中標津に定住して頂け、若者も集まるのではないか。
- ・廃校を利用するなどお金のかからない形でも可能ではないかと思う。

中標津の自然を子どもたちに伝える視点を

- ・中標津の自然を子どもたちに教えたり知らせたり食べさせたりする視点が足りない気がする。
- ・中標津は淡水魚の宝庫であり、淡水魚の水族館があっても良いと思うし、動物、植物、昆虫といろいろな現状を整理して展示などを行える施設があれば良いと感じる。

商店街を中心とした市街地から多機能な市街地へ

- ・商店街を中心とした市街地から、今、皆さんからお話しのあったような市街地づくりをしていく構想をしっかり打ち出していく必要があると思う。

ブレのない目指す町の姿を描き動機づけとする

- ・描いたものを絵に描いた餅に終わらせないように、どんなまちを目指していくのかという動機づけが必要。
- ・いろいろなアイデアが出てきたときに、描いた目指すまちがブレて曖昧にならないように気をつけなければならない。

町内会で何ができるのかの検討が必要

- ・町内会でできることは何なのか、役所でどこまでできるのかということ突き合わせ、町内会をいろいろな形で支えていく必要がある。
- ・今回の都市マスをきっかけとして、町内会レベルでの検討を行い、自分たちで何ができるのかという検討が必要。

紙媒体の情報提供が重要

- ・情報は、インターネットも大事だが、直接ふれ合う機会も大事。コストはかかるが、重要なのは紙媒体の情報提供で、手間は掛かるが、当面は両方が必要。
- ・今後、インターネットに慣れ親しんだ人たちが増えてくるので、まちづくりにおけるインターネット利用を先取りするような形で取り組んでいくことが必要。

優先順位を確認した上で次年度以降の議論が大切

- ・マスタープランのなかでは優先順位をつけて項目の中で重複しているものを優先して行くのが必要。
- ・このあたりの基本的な部分について確認をした上で、次年度以降の議論を行っていくのが大切。

住民の視点でのまちづくりへ

- ・色々なことを行政で取り組んでいるつもりだが、情報発信が不足していたり、発想や視点を変えていかなければいけないと感じた。

都市マスの実効性の確保

- ・総合計画の中に都市マスが組み込まれ、そこに並列で福祉や医療、農業の計画も組み込まれ、お互いに連携することで実効性が確保されるのではないかと。

利益を分散し職を生み出す

- ・一次産業がしっかりしていて利益が上がっても地域の仕事にうまく分散できていない感じがする。
- ・利益をうまく分散して職を生み出すことによって、一次産業だけでなく二次産業、三次産業へと派生させ魅力を高める必要がある。

他の計画とリンクした都市マス

- ・都市マスは、他の計画とうまくリンクしてつくっていくことが肝心。

優先順位をつけてしっかり実行

- ・優先順位をつけてそれをしっかりと実行していくことは、限られた予算の中でも強く求められている。

人口よりも町の中が成長、熟成していく発展を

- ・人口の目標値だけを高く持つのがよいのか、雇用や文化などの内面的なものを求めていくことも発展になると感じる。

事務局：本日の議事につきまして委員の方には貴重なご意見を頂き誠にありがとうございました。

今回は、新年度になりまして、事務局で地域別構想としまして、市街地の6つのブロックの地域別構想を住民の方と共に議論し、その後、6つの地域で合同により、地域間の連携方法等を議論しまして、その結果をもって7月に開催したいと考えております。今後の状況も見ながら、次回までの期間が開きますので、策定委員会の開催が必要となった場合、委員長とも相談させていただき御案内するかもしれませんので、ご了承願います。次回の策定委員会につきましては改めて、事務局の方からご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、本日の予定の議事につきましては全て終了いたしました。大変ありがとうございました。お帰りの際は、くれぐれも気を付けてお帰り下さい。